

平成30年度の取組み状況

(1) 小・中学校・特別支援学校の児童生徒を対象とする取組み

◆ “いじめ・非行をなくそう” 標語の募集及び全県広報

- ・県内の全小中学校及び特別支援学校に対し“いじめ・非行”の防止・根絶に向けた標語を募集したところ、合計53, 166点の応募があり、各地区ごとに審査が行われ、下記の4点が優秀作品に輝きました。

【平成30年度“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動優秀標語】

村山地区：標語だけ？ 実践してこそ いじめゼロ

(寒河江市立陵東中学校1年 安孫子 未玖さん作)

最上地区：なりたいな。心の声が分かる人

(新庄市立萩野学園5年 齋藤 乃愛さん作)

置賜地区：友だちのちがいをみとめて 広がる輪

(白鷹町立東根小学校4年 丸山 剛さん作)

庄内地区：「やめよう」と言える勇気を広げたい

(鶴岡市立朝暘第三小学校5年 工藤 未尋さん作)

- ・優秀作品については、青少年の健全育成に携わる関係者が一堂に集う山形県青少年健全育成県民大会（開催日：平成30年10月21日、場所：伝国の杜置賜文化ホール）の場で作者が表彰され、“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動ポスター等各種広報媒体に掲載されました。

(2) 高等学校の生徒を対象とする取組み

◆ 高校生徒会によるいじめ防止スローガンの作成、ポスターデザインの募集

- ・県内の各高等学校において、生徒会等が主体となっていじめ防止スローガンを策定し、学校ごとにスローガンの実現に向けた様々な取組みが行われました。
- ・県内の高等学校に対し、“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動のポスターデザインを募集したところ、計21点の応募があり、審査により優秀作品が選ばれました。

◆ 「児童・生徒と地域の大人の対話会」の実施

- ・県内4地区において、子どもと地域の大人が互いに向き合い、いじめ防止のために何ができるのかを考える対話会が行われました。各地区の実情に応じて、小・中学生との対話会が行われたところもあり、大人と子どもが真摯に向き合うことでお互いに学んだことも多く、地域と子どものつながりが大事であると再認識できました。

(3) 県内の各地域における取組み

- ・県内各地域の推進機関・団体は、それぞれの計画に基づき、街頭及び学校での啓発活動やいじめ・非行防止のための講習会・懇談会等を開催するなど、積極的な活動を展開しました。

◆いじめ・非行防止セミナーの開催（山形県青少年健全育成県民大会の中で開催）
青少年の健全育成に携わる関係者が一堂に集う山形県青少年育成県民大会の場で、地域・学校・家庭の3者の連携をテーマに、お笑いコンビ「TIM」のゴルゴ松本氏による「命の授業」と題した講演と長井市の優良事例発表を実施しました。講演では、漢字や歴史を通して命の大切さを学び、一人で悩まず言葉や表情で伝えることでいじめ防止策のヒントが得られました。また、第40回少年の主張全国大会で、最優秀である内閣総理大臣賞を受賞した天童市立第三中学校3年岩淵礼姫さんが、「人生を駆け抜ける」と題し、自分のいじめ体験を克服したことを発表し、メッセージを訴えました。

◆地域の大人のためのインターネット利用に関する研修会の開催

平成30年5月29日に県庁講堂にて、講師に株式会社ラック サイバー・グリッド・ジャパンの吉岡良平氏を迎え、「家族で考えたいネットのトラブルとセキュリティ～ネット、スマホ、SNSと上手に付き合うために～」と題し、子ども達を取り巻くICT環境の現状や大人と子どもではインターネットに対する危機感や価値観が違うことなどを分かりやすく説明していただきました。今後、ICT環境において大人は子ども達とどのように向き合っていくべきかについて、大きなヒントを得ることができました。

(4) 各種媒体による普及啓発



学校法人富澤学園山形城北高等学校3年長岡琴羽さんの作品がポスターデザインに選ばれました。

- ・普及啓発音源の作成

- ・県内プロスポーツ団体と連携した啓発活動
モンテディオ山形と連携し、山形総合運動公園にて9月30日の試合会場等で啓発活動を実施しました。

◆運動の概要について、詳しくは実施概要をご覧ください。